

平成 2 5 年 第 2 0 回 教 育 委 員 会 会 議 録

招 集 年 月 日	平成 2 5 年 1 2 月 2 6 日
招 集 場 所	役場 第 3 会 議 室
開 会	1 1 時 0 0 分 委 員 長 宣 告
出 席 委 員	井上教育委員長 立脇教育委員 福田教育委員 川上教育委員 内田教育長
欠 席 委 員	
教 育 長 の 報 告	<p style="text-align: center;">別紙資料による</p> <p>○事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町議会定例会 ・県教育研究集会 ・全国市町村教育長セミナー ・郡体育協会検討委員会 ・町史編纂意見交換会 ・西部地区町村教育長会 <p>○行事予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育懇話会 ・西部地区町村社会教育協議会常任委員会 ・西部地区町村教育委員会連絡協議会合同研修会

議 事 日 程		
議 事 の 経 過		
日 程 そ の 他	発 言 者	発 言 の 要 旨
にちなんサポート塾について	委 員 長 教 育 長 事 務 局	<p>にちなんサポート塾について説明を求める。</p> <p>詳しくは事務局から説明させる。</p> <p>サポート塾の狙い、期待することとして以下の3点を考えている。1つは、日南町の子供たちの学力向上、学力を保障するという面。2点目は、塾が無いことや少人数での学習という事もあり、刺激が少ない。このことから自分の学力を相対的に自分で評価をし、捉えるということが必要ではないかと考える。3点目は家庭学習の充実で、教職員の方で授業の改革という事で進めてきたが、家庭学習の充実ということがもう一方でしっかりと出来ていないと、成果が上がってこないということを感じている。今回の取り組みが家庭学習へ発展していくことを、期待しながら狙いとして定めている。実施について小学校・中学校全児童・生徒で、年間5回という事で進めている。中身については5回のうち3回は、チャレンジテストという形で、小学校の4年生以上がテストを行なう。私塾からテストを提供してもらい、順位等を出して、子供や保護者に還元していく形になる。小学校下学年については、学習の基礎を作る体験学習を実施していく。これについては、学校支援のボランティアや講師も得ながら進めていきたい。残りの2回は、サポートセミナーという事で、テストを振り返りながら弱点を補うような、個別の学習を私塾の方を呼んで行っていきたいと考えている。合わせて保護者の方々にも講師のお話しを聞いていただいたり、子供たちの授業を見ていただいたりと、研修も行なっていきたいと考えている。実施日については、部活動やクラブ活動も考慮しながら、日程を定めていこうと考えている。アンケートの回収率は50%足りないぐらいの状況であるが、内容については概ね理解をしていただいた。実施することについては、回数が少ないんじゃないかという意見もあった。</p>
	教 育 長	<p>補足として、バスについては土曜日なので臨時便という形で、運行するという事で整っている。さらに給食についても、全て対応するという事で協議済みである。小学校の1年生～3年生について、保護者が昼から帰ってきても対応できないというケースもあると思うので、子育て支援センターとの連携によって、その場合については午後子育て支援センター</p>

		が対応するというので協議は終わっている。鳥取県から支援がされる予定になっている。
	委員長	説明があったが、質疑・意見はあるか。
	委員	方向性としても結構な対策だと思うが、先生方はどこまで関わりを持つのか。印象的には、民間業者へのまる投げとまではいなくても、委託をして土曜授業に変わる授業としての体裁を、整えたような印象を受けるが実態はどうなのか。
	事務局	体験学習については、学校支援のボランティアの方々や、当然学校の教員も加わって行なう。チャレンジテストについても、教員がついて行なうことになっている。教員の割り振りという事で、対応が可能ではないかと現在考えている。テスト自体を民間の業者から提供してもらい、受けたテストの成績の処理を、民間の業者の提携の中で行なうという事を考えている。サポートセミナーについては、講師に来ていただいて、子供たちには学習のポイントという事で、授業のような形をとり、保護者の方には講和という形をとっていただく予定である。ただ、そこについても教員が全くゼロと言うことでは無い。教員も子供たちの様子を見るということも、大事な仕事だと思っている。
	委員	保護者の中には、土曜授業というものを理解できていない人も居る。説明不足で名前を見ても塾と書いてあるため、アンケートを熟読していない人もいるのではないかと。1月2月の参観日に説明をすとの事だが、わかりやすい丁寧な説明をお願いしたい。
	教育長	なぜ土曜授業という名前を使わないかという、現行で国・県がいう土曜日授業というのは、学校外で先生は関係なく地域の皆さんと行なう事業であり、根本的に日南町とは違う。土曜授業という名前を使えば、混乱を招くのではないかと思います使用していない。今後徐々に説明は行なっていくつもりである。
広域連携協議について	委員長	広域連携協議について説明を求める。
	教育長	日野高校のあり方を考える協議会について、3町連名で県に対して、地元としてはこういう高校にしてくれという具体的な明文化したものを提出するという話になった。提出しても今の日野高校の問題が解決するかというと、それでもまだ解決には至らないんだろうと考える。おそらく来年の上半期には鳥取県教育審議会に上げている諮問に応じて、平成31年以降の県内の高等学校のあり方の答申が出てくる。それがどういうものが出てくるかが、一番の大きなポイントだと思っている。我々も県教委や教育審議会のメンバーと個別に意見交換をして、方向性をもっと明確にしていくつもりである。2点目は、郡内の体育施設の老朽化・体育施設不足について、黒坂校舎の施設・用地を使って集中した運動施設を整備しようという話しがでた郡体協が県・県会議員・

	<p>委員長</p> <p>委員</p> <p>教育長</p>	<p>町長あたりに要請しようという話しになっていると認識している。町の負担を考えたときに難しいということで、なかなか3町の連携がうまくいかない状況である。3点目は、中教審の答申を受けた教育行政・教育委員会制度の改革ということで、西部地区で連携していくやり方を模索しようとして提案をした。県が目玉事業として、政策戦略事業を挙げている。それに西部の町村を代表してプランを挙げ、予算としては5割を県から支援を受ける。承認されれば2年間継続的に研究協議が出来るというような事業である。来年度全体で300～400万ぐらいのものでやっという提案をした。</p> <p>3点について報告があったが質疑・意見はあるか。</p> <p>2点目の報告に関して、今太田原の再開発が進められているが、郡の体育施設を作るいい機会ではないか。そこを整備してドームを作ってはどうか。</p> <p>どのような施設を作るかで答えは変わってくるが、今言われるような施設を全て作るとなれば、敷地や地層の面も含めると難しいと考える。</p>
<p>今後の地方教育行政の在り方について</p>	<p>委員長</p> <p>教育長</p> <p>委員長</p> <p>委員</p> <p>教育長</p>	<p>今後の地方教育行政の在り方について説明を求める。</p> <p>今後の地方教育行政の在り方についての答申が承認された。</p> <p>※資料に基づき詳細説明</p> <p>政府の中で改定案を出したいが、与党内で相当の反対があるため、答申の通りにはならないのではとの見方がある。</p> <p>説明があったが意見はあるか。</p> <p>教育長を含む教育委員会だから情報が得られるけども、教育長が外れてしまった教育委員会になると、情報収集に限界がある。極めつけの形骸化になってしまう。改革とはいえない。</p> <p>自民党・公明党の中には、2つの案とは違う案を出す動きもある。</p>

